

無量寿

【発行】雲夢山寿命寺

2019
春

CONTENTS

[P1] 永代経案内・講師紹介 [P2-7] 2018年報恩講話録
[P8] 活動報告「はなまつり」他、年間行事予定他連絡事項

大津市雄琴 3-19-36 TEL/FAX 077-572-5125 <https://jumyouji.net/>

永代経法要

5/12日

【昼】14:00~16:00

【夜】19:30~21:30

〔講師〕釋迦浩爾 師（高島組浄願寺住職）



元号が変わっても、今年も変わらず永代経の季節を迎えました。永代経とは読んで字の如く、永代に渡ってお経が読み継がれることを願って勤める法要です。

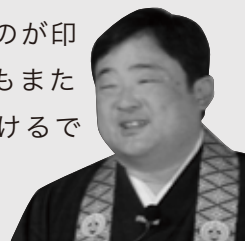
去年の報恩講で講師の浅野執持師が「経」の字には縦糸の意味があると教えてくださいました。お経を人生の縦糸に頂くことで毎日のあらゆる営みを貫く秩序が生まれ、失敗や喪失も含めて人生に一寸の無駄もなかったと味わえる世界が開けます。親鸞聖人はそのことをご和讃に「本願力にあひぬれば むなしくすぐるひとぞなき」とお示してくださいました。

ご先祖さまが繋いでくださった大切な縦糸。私達もしっかり頂き、次代に繋ぎましょう。どなた様もお誘い合わせの上、お参りください。

【ご講師】釋迦浩爾 師

1966年5月生まれ。優しく楽しく面白く、でもしっかりと南無阿弥陀仏のお話をしてくれます。

当山では2015年の永代経に一度お招きしています。その時は得意の料理の話をたくさんしてくださって、特に女性陣が感心しながら聞き入っていたのが印象的でした。今回もまたそういうお話が聞けるでしょうか？



「如来の家に帰ろう」

浅野 執持(あさの しゅうじ) 師

(愛媛県 今治市 万福寺)



昨年の十月二十七、二十八日にお勤めした報恩講。二日で四座のご法話を頂きましたが、ここでは二日目のお話の要約をお届けします。お祖父様の言葉をテーマにお念仏の心をお聞かせくださいました。

おはようございます。昨日から報恩講のお取次ぎをさせて頂いている浅野と申します。愛媛県今治市から来ました。

なりましたね。そんな今治市の瀬戸内海に浮かぶ大三島は万福寺というお寺から参りました。どうぞよろしく願います。

今治のこと何かご存知ですか？

生死(しょうじ)を超える道

そうタオルが有名ですね。一時期は中国製に押されましたが近頃はブランド化して盛り返しています。それから造船の街でもあります。タンカーやコンテナ船が必要な方は

さて今日は宗祖親鸞聖人の遺徳を偲ぶ報恩講です。聖人は九十年の生涯を送られました。当時は鎌倉時代です。

どうぞお声がけください。そして最近では獣医学部の街として有名に

皆さんは何時代のお生まれですか？私は昭和生まれですが平成を

経て来年元号が変わります。いつまで生きられるかは分かりませんが、あと一つか二つの元号の時代を過ごすのかなと勝手に考えています。

では聖人の時代はどうだったか。

実は今のようになつて天皇に一元号というのは明治以降のこと、それ以前は飢饉や疫病などが起こるたびに世を改めるとして元号を変えたそうです。だから今と比べられないのですが、それでも聖人のご生涯の間に天皇自体が十一人も変わら

れています。そして元号はというと

なんと三十六！それだけ動乱の不安定な時代だったということです。

ただ悠然と長生きされたのではない、大変困難な九十年であつたという

ことをまず押さえておきたいのです。

ではその困難なご生涯で聖人は

何を求められたか。それは「生死」

を超える道であつたといわれます。

生死とは一般には「せいし」と読み

ます。生きることと死ぬこととい

う意味ですが、仏教では「しょうじ」と読みます。この場合は生まれて

死ぬということ、しかもそれを

私たちは永遠に繰り返していると

いうのです。そしてそこからの解放

を目指す道を仏道といい、その到達点

が悟りや涅槃といわれる境地

です。

聖人はそ

れを求めた

というのですが、それ

は単なる仏道ではありませんで

した。正信偈には「承知生死即涅槃」

あるいは「不断煩惱得涅槃」とあ

ります。涅槃とは私達の苦しみの



原因となる煩惱が消え去った状態です。でも聖人はそれを抱えたまま涅槃に向かう、そういう仏道を求められたのです。私達はお金、仕事、家庭、健康…いろんな悩みを抱えて生きていますが、それから解放されて救われるのではなく、その中にありながら歩んでいく仏道。それが親鸞聖人が求められた「生死」を超える道でした。

臨終とはいっつ？

先程皆さんは阿弥陀経を称えられました。実はあの中に私の名前が出てくるんです。「執持名号若一日若二日…若七日一心不乱其人臨命終時…」とあったでしょ？「南無阿弥陀仏の名号を命尽きるまで執り持ちなさい」と、これが文面の意味ですが、その裏に私が南無

阿弥陀仏を執り持つのではなく、実は私が南無阿弥陀仏に執り持たされるんだという本当の意味があると、そう聖人は読み取られました。私の人生がどうあつても如来さまは私を見捨てないということ

とここでこ

こに「臨命終

時」と出てきます。



略して「臨終」ですが、ここで問題。

臨終っていつですか？一番、命終わつ

た後。二番、命終わる瞬間。三番、

命終わる前。さあどうですか？二

番？ブブー。当たらハワイ旅行

だったんですけど残念(笑)。正解

は三番なんです。臨海公園ついで

うでしょう。あれは海の際でも中

でもありません。海の手前。だから

臨終も命が終わる手前のこと

で、幅があるんです。どれくらいの幅でしょう。十秒？十分？十時間？十年？

平安時代、貴族社会を中心に広まった浄土教は「臨終作法」という儀式を伴ったものでした。それは先程の阿弥陀経に因んで七日間に渡って行われ、命が絶えそうな人を僧侶が囲み読経などを行うのです。最後に動揺しない、転倒しない。それが往生にとって何よりも大切だと考えられたのです。

でもこれが法然聖人や親鸞聖人の登場によって変わっていきます。親鸞聖人にとって臨終とは「ずっと」です。私達はいつ命が終わるか分からない。ということは今だつていつだって、ずっと臨終だということ

ことです。だから今ここで南無阿弥陀仏に

出会っていることが大切だと仰るのです。人生の最後がどんな姿であつても関係ない。今ここが大切。私の心も関係ない。阿弥陀如来さまのお心に委ねていく。それが親鸞聖人によって示された他力のお念仏ということでした。それは特別な道ではなく、普段の暮らしのまんま、その中で南無阿弥陀仏を中心に歩ませて頂く道でした。

如来の家に帰ろう

そのことを私は二十五年前に往生した祖父の言葉を通して頂いています。広島から婿養子として万福寺に入った祖父はその極端な寡黙さで有名でしたが、寺報などにたくさんのお言葉を遺してくれました。その中に「如来の家に帰ろう」という言葉がありました。

皆さんは今日誰の家に帰られ
ますか？自分の家ですよね。隣の
の家に帰るといふ方はないでし
う。でも自分の家と言つても実
それは仮の家です。仮とは期間
限られていふことです。生
まれてから死ぬまでの期間限定
の家。しかもその期間はいつ終
わつか分らない。

「如来の家に帰ろう」とはそ
んな私中心の仮住まいではなく、
私が生まれるずっと前から待つ
ていてくださる如来さまを中心
とした生活を送ろうといふこと
です。その「如来の家」の具体
的な在り方として、祖父は三つ
の定義を挙げていました。

一、如来のお姿を拝見できる家

第一は「そのお姿を拝見でき

る家」です。ここに居る皆さん
の家にはきつとお仏壇があるで
しょう。でもそれは当たり前で
はない。果てしないご縁を頂
いてのことなのです。私は学生
時代この辺に來たことがあります
が、今回二十年ぶりに寄せても
らつて新しい家が増えていてび
つくりしました。でも新しい家
にはお仏壇がないお宅も多いの
ではないでしょうか。



以前たまたま見ていた
テレビで静岡県の茶
畑の主の話を聞き
ました。七十代の

男性でしたが「最近急須がない
家が増えていふ」と嘆いておら
れました。お寺には急須はいく
つもありますから驚きましたが、
調べてみればそうかもしれませ

ません。皆ペットボトルのお茶
を飲んでいますから急須なんて
いらぬのでしう。

お茶を飲まなくなつたわけ
ではありません。でも急須で入
れたお茶には味以上の何かがあ
るような気がしますし、それは
急須がないお茶そのものですが
、それを伝える「形」も大切な
のだなと感じさせられました。

お念仏も同じです。肝心なこ
とは南無阿弥陀仏を頂くこと
です。でもお仏壇に毎日手を合
わせる。その形があつてこそ南
無阿弥陀仏が私の元まで伝わ
つてきたのではないでしうか。

この辺は新しい家が増えてい
ますが、うちの方では逆に島
から出ていく人が増えていま

す。とですが、前にご門徒さん
が島を出て大阪に家を構えた
子どもにお仏壇をプレゼントさ
れるという有り難い話があり
ました。父が入仏法要にお邪魔
したらご主人が「お仏壇を迎
えて家がどつしりました」と
言つてくださつたそうです。

お仏壇がなければ自分が家
の中心です。その自分といふ
のはどつちに向かうか自分でも
分らないのです。それを中心
にした暮らしはやはり覚束ない
感じがします。でも御本尊を迎
えるといふことは如来さまを
家の、そして暮らしの中心に
頂くといふことです。

ところで世界には様々な宗
教がありますが、ある宗教

と、時間を定めてお礼するというのが宗教を宗教たらしめるひとつの要因だと言います。

逆に自分の

都合で手を合



わせたり合わせないというのは、宗教より呪術に近くなるそうです。

言い換えれば目に見えないものを自分の都合のために操り利用しようというのが呪術で、逆に目に見えないものに手を合わせ仕えていく

というのが真の宗教ということです。

親鸞聖人は私がお願いするので

はない、私にかけられた阿弥陀如来さまの大きな願いを聞くんだといわれます。これを祖父は「如来の家に帰ろう」と示し、その具体的なあり方として第一に「お姿を拝見できる家」と書き残してくれ

たのです。

そろそろお昼でお腹が空いてき

ましたね。第二、第三の定義は午

後お話させてもらいます。お齋が

楽しみです(笑)。



二、お念仏の声が聞こえる家

おいしいお齋を頂き、いよいよ最

後のお座です。今しばらくお付き

合ください。

祖父の言葉「如来の家に帰ろう」

の二つ目の定義は「お念仏の声が聞こえる家」です。朝夕にお仏壇に向かってお勤めしお念仏する。その声が響く家ということでした。

皆さんはどうですか？朝は忙し

い？夕方はもつと忙しい？なかなか毎日続けるのは難しいことです

よね。でも忙しくない時に座ろうと思っていたら人生は足りないの

です。例えば今日の報恩講はどう

ですか？それぞれ忙しい中、早くから予定に入れて時間を割いて来

てくださっているんじゃないですか。そんな風に時間を定めて南無阿弥陀仏とお礼申し上げることが

大切なのです。

でもお念仏はお寺や仏壇の前だ

けのものではありません。以前本

山でお役を頂いて勤めていた時の同

僚は、衣を脱いで私服の時も南無

阿弥陀仏と大きな声で称える男でした。本山の向かいのローソンに行っても「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と大きな声でやるもので

すから、最初は恥ずかしいと思っ

たものです。でもしばらくすると私も慣れてきて、彼ほど大きな声でなくともお念仏が出るようにな

りました。

今朝うちのお寺に電話したら連

れ合いが出ました。電話の向こうで南無阿弥陀仏とお念仏してくれ

ました。今のはどういう意味のお念仏？と聞くと、おはようのお念仏だと言っていました。おはよう

にお念仏が出るとはなかなかすご

いものだなと感心させられました。

どこであつても、どんな姿であつ

ても、どんな心持ちであつたとし

ても、私の口から南無阿弥陀仏と

出るのは、如来さまの心が私に届いている証拠です。だから湖西線の中でも南無阿弥陀仏と称えたいのです。

でも昨日乗ってきた湖西線では

お念仏は聞こえませんでした。私は今は袈裟衣姿ですが、普段はお気に入りのジーンズやTシャツを着たりしています。結構オシャレなんです(笑)。でも確かにそういう姿だとお念仏は出にくいですね。今の

もいいでしょう。とにかく時間を割いて座らせて頂きましょう。そうでなければあつという間に一日が、一年が、一生が自分中心のまま終わっていきます。それこそが仏教という迷いの姿です。

のような格好をさせてもらっている時のほうが出やすい。みなさんも何もないところではお念仏がしにくいでしょう。でもこうしてお寺に参れば前に仏さまのお姿を拝見し、そして横には仲間がいる。こ

でも迷いの私であつても南無阿彌陀仏にいだかれている。南無阿彌陀仏の中に私がいる。そのことを毎朝、毎夕自ら称えるお経やお念仏に聞かせて頂く。それが祖父のいう「お念仏の声が聞こえる家」です。



三、お光明が充ち充ちる家

だからこそ、時間を定めてお仏壇の前に座ってお念仏させて頂くのです。できたら正信偈を、長いと思われるなら讃仏偈や重誓偈で

三番目の定義は「お光明が充ち

充ちる家」です。姿・声と来て光。目に見える光ではなく、仏さまのはたらきを喩えています。だから見るのではなく味わう、感じるものです。そして感じたまま頂戴するのがお聴聞ということです。お寺で法話を聞くだけをお聴聞というわけではありません。生活の中で聞き開くものです。生業の中に、子育ての中に、あるいは病床にあつても、最後の最後まで如来さまと一緒に聞かせて頂く。これが念仏者の生き方です。

かれた方です。それから近年リニューアルした東京銀座の歌舞伎座の緞帳の絵も手がけられました。平成二十八年には高野山の開創千二百年記念として金剛峯寺に満開の枝垂れ桜の襖絵を奉納されています。

そろそろお別れの時間が近づいています。最後にちよつと自慢話をさせてください。皆さんは中島千波という日本画家をご存知ですか。現代日本画家の中心的作家で、あの海老蔵さんと麻央さんの結婚式の引出物の袱紗に牡丹を描

自慢というのは、実はうちのお寺の本堂の襖絵もこの中島画伯によるものなのです。それも高野山のよりも大きな枝垂桜の絵です。樹齢五百年の醍醐寺の桜で実に一万枚の花びらが咲き乱れています。万福寺さんはお金持ちなのかと思われるかもしれませんが、そうじゃないんです。実はまだ画伯が若手の頃、うちの地元の町長が若い日本画家のための美術館を建てたんです。それで画伯と町長の間にご縁が結ばれました。そしてその町

長が万福寺のご門徒だったのです。もう亡くなられたのですが、お寺の改修に際して元町長への供養として絵を描いて頂けませんかとお願ひしたところ、あの町長のお寺のことなら喜んでと奉納、つまり寄付してくださったのです。どうです? いいでしょう? 見たくなったでしょ? では皆さんに特別にお見せしますから、今からすぐ万福寺に集合しましょう!

…といわれても困りますよね。都合もあるし、心積もりもなければ行けません。でもこの話、行き先をお浄土に変えたらどうですか? 自分の都合や心積もりがあっても行けませんよね。それにどうやって行きましょうか。私の大三島には車で行くのが一番便利でしょう。でも車には定員があります。

誰を選びましょうね。私の話をよく聞いてくれた人? もしお浄土に行くにもこんな風に定員があったり選考試験があるとしたら、最後の最後まで不安ですよ。

親鸞聖人は如来さまが私達をお浄土に連れて行くおはたらきの事を大きな船に喩えられています。それはとてつもなく大きくて定員などありません。ましてや私達の思いや才覚、行動で選別されることもありません。

さらに乗ってみたならば、その大きな船が実は私一人のためのチャーター船であったことに気付かされたというのが、

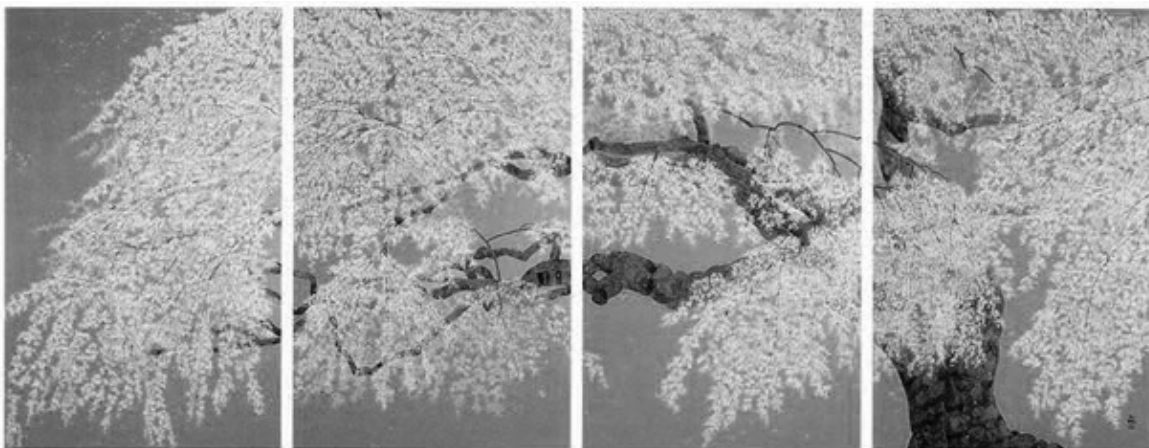
親鸞聖人の味わいでした。一人で船を貸し切つ



ているではありません。そこにはお父さんやお母さん、あるいは我が子もいるかもしれませんし、家族以外にも無数のご縁の方が一緒に乗っている。けれどもその方々は乗客ではなく、みんなが私を導く添乗員、すなわち菩薩さまであったと聖人は頂かれたのです。

喜びも悲しみも苦しみも、いろんなご縁を通してこのわたしの人生を輝かせてくださった。すべて如来さまの光明が充ち充ちる縁でありました。声となり姿となり円満してくださる。それを私達は自ら称える念仏のなかに頂くばかりでした。そう教えてくださった親鸞聖人、そしてそれを私の元まで紡いでくださった無数のご縁に感謝する。それが報恩講の心でありました。

いつか皆さんも大三島にお越してください。満開の桜とともにお待ちしております。



寿命寺 2019 年度行事予定

- 5/12(日)
「永代経」(講師:釋迦浩爾 師)
- 5/18(日)
「降誕会」(婦人会主催)
- 8/15(月)
「盂蘭盆会法要」(墓地)
- 10/26(土)・27(日)
「報恩講」(講師:藤澤信照 師)
- 12/31(土)
「除夜会」(除夜の鐘)
- 1/1(日)
「元旦会」
- 2月
「婦人会追悼法要・総会」
- 3月
「門徒総会」「壮年会総会」

本堂法事利用時のお願い

年忌法要などで本堂をご利用の際、ポット、急須、湯飲みはお寺がご用意いたします。茶葉、茶菓子等につきましては、施主様においてご用意下さい。

また、使用された湯飲み、急須については、本堂脇の客殿流し場にて洗浄して下さい。ご協力の程、宜しくお願い致します。

★編集後記★

この6月から堅田の本福寺こども園で働くことになりました。今までより近くなるので、これまで以上にお寺のことに力を入れたいと思います。

手始めに知人の本山の先生を招いて定期的な勉強会を企画。9月くらいに開講したいです。お楽しみに。(住職)

今年も花まつりが開催されました



去る4月8日、門前の桜も満開のころ、今年も花まつりが開催されました。事前のポスターや当日ののぼりを見たと言う近隣

の小学生や、ご門徒のご家族のお子様方が訪れて、20人以上の子どもたちが集まってくれました。

初めて飲む甘茶の味に驚いたり、慣れない手つきで誕生仏に甘茶をかけたりと、子どもたちの表情はとても新鮮でした。境内を使ったゲームでは、最後のピースがなかなか見つからず、みんなで大捜索!最後に見つけた子は、恥じらいながらも誇らしい表情をみせてくれました。

子どもたちのにぎやかな声が聞こえるお寺って、いいものだなと、改めて感じた一日でした。

「おてらおやつクラブ」グッドデザイン大賞受賞!

昨年10月、寿命寺においても細やかながら協力させていただいております「おてらおやつクラブ」の活動が、2018年のグッドデザイン大賞に選ばれました。



「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えされたお菓子などを、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ届ける活動です。

グッドデザイン賞は1957年に創設された日本を代表するデザイン賞です。元々は製品や商品の使い勝手や利便性を評価対象としてきましたが、今回は社会慈善活動の「しくみ」がデザインとして評価されたという画期的な受賞でした。この受賞で活動の輪が更に広がり、少しでも貧困問題の解決に繋がっていくことを願っています。

寿命寺では、いつでもこどもたちへ送るおやつのお供えを受け付けています。住職までお声がけください。皆様からのあたたかいご支援をお待ちしています。